

2025年10月26日 宗教改革主日礼拝説教
「救いの表と裏」(ローマ3章19～28節)

○ローマ3章20節のみことば

「(神の戒めを守り、善き行いをしても) だれ一人神の前で義とされない」

*義とされる：神に等しい人、御旨に適った者と見做される。

☞だれであっても、どう頑張っても、神の求める聖さ、正しさに届きはしない。

「正しい者はいない。一人もない。」(ローマ3章10節)

問：わたしたちは、どのようなときに、正しさを求めるのか？

今日のみことば：ローマ3章22節

「イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。」

☆神の義しさは、勝ち取るものではなく、ただ恵みとして、天より授かるもの。

「アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。」(創世記15章6節)

問：どのようにして、キリストを信じればよいのか？

○ローマ3章25節のみことば

「神は、このキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。」

*罪を償う供え物：神の怒りを鎮めるため、人々を災いから守るための生け贄。

※正しくない己を認めるところから〈神の義しさ〉に眼を向ける歩みが始まる。

*聖書翻訳本文は日本聖書協会『聖書 新共同訳』からの引用です。